



子宮内膜症に伴う疼痛改善剤・月経困難症治療剤

月経困難症治療剤

ヤーズフレックス®配合錠 または ヤーズ®配合錠

の「一般名処方」による取り違い防止へのご協力をお願い

2022年 7月
バイエル薬品株式会社

謹啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社ならびに弊社製品に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、弊社製品「ヤーズフレックス®配合錠」(2017年4月発売)および「ヤーズ®配合錠」(2010年11月発売)は、同一の有効成分・剤型ですが、承認された効能・効果、用法・用量、ならびに1シートの錠剤構成が異なる製剤です。

しかしながら、両剤の一般名が同一であるため、後発医薬品が存在しない「ヤーズフレックス®配合錠」を一般名処方された場合には、後発医薬品の存在する「ヤーズ®配合錠」と区別できません。2022年5月31日現在、弊社には、調剤時の取り違い事例報告2件を含む両剤の区別に関するお問い合わせを計55件お寄せいただいております。

上記の状況を踏まえ、「ヤーズフレックス®配合錠」または「ヤーズ®配合錠」のご処方、ご調剤にあたりましては、今一度下記についてご確認・ご検討をいただきますよう、宜しく願い申し上げます。

●後発医薬品のない「ヤーズフレックス®配合錠」に関しては、一般名処方ではなく、**製品名でのご処方をご検討ください**

●一般名処方される場合は、**プラセボの有無または製品名を追記してください※**

	ヤーズフレックス®配合錠	ヤーズ®配合錠
一般名に追記する場合の記載例	【般】ドロスピレノン・エチニル エストラジオール錠(プラセボ無)	【般】ドロスピレノン・エチニル エストラジオール錠(プラセボ有)
備考欄等に追記する場合の記載例	「Rp1:プラセボ無製剤」 または 販売名「ヤーズフレックス配合錠」	「Rp1:プラセボ有製剤」 または 販売名「ヤーズ配合錠」

●調剤時にどちらの製剤が処方されたかご不明な場合は、処方医にご照会ください

※ 処方オーダーリングシステム等をお使いの場合、追記内容を含めた表記に変換されるようシステム上の設定等を変更されることもご検討ください

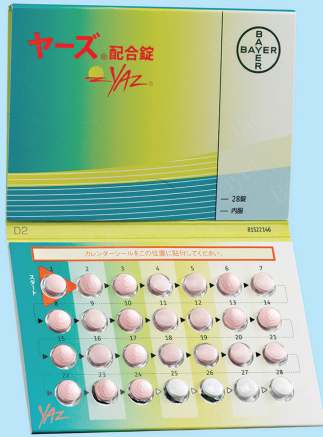
先生方におかれましては大変お手数をお掛けしますが、取り違い防止のためご配慮を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

謹白

(裏面もご確認ください)

<参考資料>

■ 表：ヤーズフレックス® 配合錠とヤーズ® 配合錠の比較

販売名	ヤーズフレックス® 配合錠	ヤーズ® 配合錠
一般名	ドロスピレノン・エチニルエストラジオール錠	
効能・効果	子宮内膜症に伴う疼痛の改善 月経困難症 生殖補助医療における調節卵巣刺激の 開始時期の調整	月経困難症
用法・用量	〈子宮内膜症に伴う疼痛の改善〉 1日1錠を経口投与する。24日目までは出血の有無にかかわらず連続投与する。25日目以降に3日間連続で出血（点状出血を含む）が認められた場合、又は、連続投与が120日に達した場合は、4日間休薬する。 休薬後は出血が終わっているか続いているかにかかわらず、連続投与を開始する。以後同様に連続投与と休薬を繰り返す。 〈月経困難症〉 下記のいずれかを選択する。 ・1日1錠を経口投与する。24日目までは出血の有無にかかわらず連続投与する。25日目以降に3日間連続で出血（点状出血を含む）が認められた場合、又は、連続投与が120日に達した場合は、4日間休薬する。 休薬後は出血が終わっているか続いているかにかかわらず、連続投与を開始する。以後同様に連続投与と休薬を繰り返す。 ・1日1錠を24日間連続経口投与し、4日間休薬する。 以上28日間を投与1周期とし、出血が終わっているか続いているかにかかわらず、29日目から次の周期の錠剤を投与し、以後同様に繰り返す。 休薬を繰り返す。 〈生殖補助医療における調節卵巣刺激の開始時期の調整〉 ・1日1錠を、通常、14～28日間連続経口投与する。	1日1錠を毎日一定の時刻に定められた順に従って（淡赤色錠から開始する）28日間連続経口投与する。 以上28日間を投与1周期とし、出血が終わっているか続いているかにかかわらず、29日目から次の周期の錠剤を投与し、以後同様に繰り返す。
1 シートの構成	実薬 28 錠	実薬 24 錠＋プラセボ 4 錠
シート写真		
後発医薬品	なし	あり